

平成 27 年度第 2 回鎌倉市障害者福祉計画推進委員会 要旨

日 時：平成 27 年 11 月 26 日（木）18 時から 19 時 30 分

場 所：鎌倉市役所 第 4 分庁舎 823 会議室

出席者：（委 員）岸川委員長、湯浅委員、氏家委員、国分委員、里見委員、中川委員、永野委員、丸山委員、中島委員、内藤委員、望月委員、野沢委員

（幹 事）磯崎健康福祉部長、大澤健康福祉部次長（福祉総務課長事務取扱）、曾根健康福祉部次長（市民健康課長事務取扱）、平井こどもみらい部次長（こども相談課長事務取扱）、石山こどもみらい部次長（こどもみらい課長事務取扱）、田中発達支援室長、杉並教育指導課長、安田障害者福祉課長

（事務局）柴田課長補佐、鈴木担当係長、久木田職員、庄崎職員

1 報告・調整事項

（1）障害者福祉計画推進委員会について

（事務局）副委員長の選出を行いたい。事務局としては、鎌倉市精神障害者地域生活支援団体連合会の永野委員に副委員長をお願いしたいと考えるがいかがか？

（委員）異議なし。

（事務局）委員の任期は平成 27 年 11 月末日までとなる。

（2）障害者福祉計画の進行管理について

（事務局）この委員会で障害者福祉計画推進状況報告書（以下「報告書」）を確定した後、平成 28 年 1 月に報告書の配布とアンケートを実施し、2 月に集計予定。新たな委員の委嘱については、4 月初旬に推薦依頼を送付し、5 月に委嘱予定。

2 議題

（1）平成 26 年度 障害者福祉計画推進状況報告書の確定

（事務局）資料 4 の 1 月と 2 月の「報告書（案）」は「報告書」に訂正する。

前回の委員会から変わったのは、資料 3 2（5 頁）以降の評価方法が、数値の増減による A～C 評価から平成 26 年度の事業の方向性に対する評価となった点。（具体的には、1-1-1、1-1-8、1-2-1、6-2-6、6-3-2）

資料 2（アンケート）については、以下のとおり。

- ・アンケートの一番前に問合せ先等を記載
- ・【設問 1】「●居住地域」を市内と市外に変更
- ・【設問 1】「●障害者との関わりについて」5 に理由を追記
- ・【設問 4】重点施策についての 3 段階評価とし、自由記載欄を追記
- ・【設問 6】自由記載欄を追記
- ・最後のページに重点施策を掲載

回収率を上げるため、窓口に記載台を設けたり、回収方法を増やす予定。

資料 3 45 頁以降について、サービス計画の最終年度であることを意識した表現に修正した。

（委員）今回の論点は、「評価方法について」と「資料 3 45 頁以降がサービス計画最終年度を意識して報告できているか」と「資料 2 アンケートについて」の 3 点だと考えている。意見があれば発言願いたい。

（委員）資料 1 1 頁の右下の 7,144 人は手帳所持者の総数か。

（事務局）ご認識の通り。

（委員）そうすると、手帳所持者の 50%以上が介護保険対象者ということになるので、それを認識してほしい。方向性への評価については、PDCA の Check 部分になるのか。

（事務局）PDCA の check に該当する。

（委員）これで課題を見つけられるのか。例えば、資料 1 8 頁の 1-1-1「相談支援事業推進」は◎になっているが、事業所数が 12 カ所で足りているのか。足りているのかどうかの評価であるべきだ。ただ、計画相談の進捗は市でしか分からないので、その評価は私達委員に

はできない。

1-2-1「障害福祉サービス事業の推進」は生活介護事業所は前年に比べて2カ所増えて9カ所になっている。増えているけど評価は○だ。ということは、9カ所でも足りないということ。そこが本題なのでは。

- (委員) この報告書は、資料3 65 頁に書いてある PDCA の Check であり、今回は Plan にあたる「障害者福祉計画」に対する check になるので、Plan に対して方向性が合致しているのか、していないのか、が今回の会議の主旨なので国分委員の発言には若干認識のズレを感じる。ただ、私も直した方がよいと感じているのは、評価表記が◎になっている部分、例えば資料1 6 頁の1-1-1「相談支援事業推進」について、評価には価値判断は含まないと言っているが、平成26年度の事業の方向性が拡大・前進になっていて、事業所数が当初の予定よりも多くなっているので方向性としては合致しているが、評価表記が◎になってしまっているのは問題だと感じている。
- では、現状の課題はどのように吸い上げるのか。それは、そもそもの計画を立てる段階での課題になる。前回よりも自由記述を多くしたアンケートによって、例えば設問6に相談支援事業所や生活介護事業所、グループホームが足りないというご意見を頂いた際に、この委員会の中で議論していくものだと認識している。
- (委員) でも、ここで課題を見つけれないとやってる意味がない。評価欄に充実していると書かれていると、足りていると思ってしまう。資料1 16 ページ (イ) 就労移行支援など、26 年度見込と実績の数値が減っていることについて、一般の人は数値が減った理由が分からないので、疑問だらけという実感がある。アンケートの居住地域のエリア区分をなくしたようだが、5つの行政区分は重要で、地域の事を考えないといけない。
- (委員) 数値評価に対して疑問はあるが、この報告書は本年度の事業設計段階からフレームを作り、すでに(案)をとって本書とすらかどうかの段階までできているので、国分委員の意見は、来年度以降、事業の計画段階で述べて頂ければよいと思う。
- (委員) 国分委員の発言内容については、来年度以降、計画を作成する際に助言頂きたい。他に意見があればお願いしたい。
- (委員) 国分委員の発言は、報告書とアンケートは連動していないことを踏まえておいてほしいと言いたかったのでは。
- (委員) 身体障害者や精神障害者という言葉に納得がいかない。精神障害といっても、認知症から統合失調症までいろんな病名があるので、その病名で話してほしい。
- (事務局) アンケートは報告書を見て答えるのではなく、日頃感じていることを書いてもらえればよいと考えている。
- (委員) 昨年のアンケートでは報告書を読まないで回答できなかったが、今年は報告書を見なくても回答できるようになって、回答者側としては有難い
- (委員) アンケート冒頭に「報告書をご覧ください」とあるが、一緒に配るのか。このアンケート内容が計画に反映される旨を追記した方がよいのでは。
- (事務局) アンケートと報告書と一緒に配布する。アンケート回答内容が計画に反映される旨を最後の方に記載する方向で検討したい。
- (委員) アンケートの居住地域は5つに戻した方がよいのでは。地区によってどういう傾向があるのかが分かると思う。
- (委員) アンケートはどのような統計を取るのか考えてから作るものであり、今回はそういう集計を考えていなかったのであれば、このままでいいと思う。議論するほどの内容ではない。
- (委員) アンケートは、前回の委員会でも出た意見を踏まえて修正されたので、このままでいきたい。最後にまだ発言していない委員や副委員長からひとことお願いしたい。
- (委員) 精神障害者が他の障害と同じように扱ってもらえるようになって嬉しく感じている。評価方法について、ABC 評価から変わってよかったと思う。
- (委員) ◎評価については、いかがなものかと感じる。またファックスで意見を述べたいと思う。
- (委員) 今日の会議で発言できなかった点などがあれば、12月11日(金)までに障害者福祉課までファックスで意見を送ってもらえればと思う。今日の会議とファックスでの意見を踏まえて、最終的には委員長と事務局に一任して確定させることで了承頂きたい。